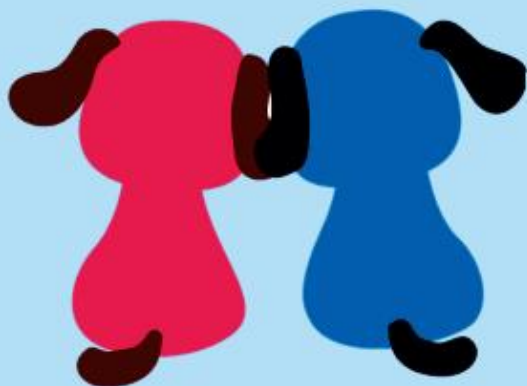


カンタン

毎日

元気をみわけるチェックシート



～ DOG ～

福井県動物愛護センター

◆犬の健康管理◆

日頃から動物の健康状態を確認し、異常があれば動物病院に相談しましょう。



① **元気食欲**…様々な原因から現れる、飼い主さんが一番気づきやすい症状。

② **排便排尿**…便の形状(軟便、下痢、血便など)や尿の回数、量、色などのチェック!

*おしっこが出ていない!…緊急性が高く、命に関わることも。

*多飲多尿 (いつもより水を多く飲み、おしっこの量が多い)

→ 病気の可能性があります。

③ **嘔吐**…異物や消化器疾患などの病気の可能性があります。

*異物を飲みこんだ可能性がある場合は早めに病院に相談しましょう。

④ **呼吸**…心臓病や呼吸器疾患、痛みなどから、呼吸が早くなることがあります。

*暑い時期の熱中症にも注意!

→ 熱中症に伴い高体温になると、細胞障害が起こり多臓器不全になることもあります。

高温多湿環境での散歩やトリミング時のドライヤーの熱風などが原因で起こり、段階に応じて粘膜の充血や頻脈、パンティング、よだれ、意識消失、震えなどの症状が認められます。

*熱中症やその他の呼吸症状がある場合、緊急性が高い場合が多いので、早めに病院に相談しましょう。



⑤ **目**…目ヤニや充血、しょぼつきなどは病気のサインかもしれません。

⑥ **耳**…外耳炎や中耳炎などで耳垢が溜まったり、痒みが出てくることがあります。

⑦ **鼻**…鼻水やくしゃみ、鼻血などの症状がないか。

⑧ **口**…口臭や歯石などのチェック!

*日頃の歯磨きなどの口腔ケアも大切です。



⑨ **皮膚**…脱毛や痒み、発赤、できものなどの確認。

⑩ **歩行**…外傷や骨折、関節炎などから歩き方が変わることがあります。

◆ボディコンディションスコア (BCS)

人がBMIで体型をチェックするように、犬はBCSという指標を利用して体型をチェックします。

理想はBCS3です。



肥満は様々な病気のリスクにつながります。理想的な体型を維持して病気を予防しましょう。

また、しっかり食べているのに痩せてきた、お腹だけが膨らんでいる（腹囲膨満）などの症状も病気のサインかもしれません。かかりつけの病院に相談しましょう。

犬のボディコンディションスコア (BCS) と体型

BCS1 痩せ	BCS2 やや痩せ	BCS3 理想的	BCS4 やや肥満	BCS5 肥満
肋骨、腰椎、骨盤が外から容易に見える。触っても脂肪が分らない。腰のくびれと腹部の吊り上がりが顕著。	肋骨が容易に触れる。上から見て腰のくびれは顕著で、腹部の吊り上がりも明瞭。	過剰な脂肪の沈着なしに、肋骨が触れる。上から見て肋骨の後ろに腰のくびれが見られる。横から見て腹部の吊り上がりが見られる。	脂肪の沈着はやや多いが、肋骨は触れる。上から見て腰のくびれは見られるが、顕著ではない。腹部の吊り上がりはやや見られる。	厚い脂肪におおわれて肋骨が容易に触れない。腰椎や尾椎部にも脂肪が沈着。腰のくびれはないか、ほとんど見られない。腹部の吊り上がりは見られないか、むしろ垂れ下がっている。

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/pamph/pet-food_guide/pdf/full.pdf



◆予防◆

ワクチンや駆虫薬によって防げる病気があります。また、予防として病院に通うことで、病気の早期発見にもつながります。ワクチンや駆虫薬には様々な種類があるので、獣医さんと相談しながら動物の飼育環境に合わせた予防をしましょう。

・**狂犬病ワクチン**…狂犬病ウイルスは、ヒトを含むすべての哺乳類に感染し、感染すると死に至る恐ろしいウイルスです。生後91日以上犬は、年に一度狂犬病の予防注射を受けなければなりません。

・**混合ワクチン**…狂犬病とは違い、任意でのワクチンですが、現在日本で感染する可能性のある病気の予防です。

ワクチンには、生活環境に関わらず全ての犬が接種すべきコアワクチンと、感染のリスクに応じて接種するノンコアワクチンがあります。

コアワクチンが対象とする病気には、犬ジステンパーウイルス、犬パルボウイルス、犬アデノウイルス感染症などがあります。

ノンコアワクチンは、レプトスピラ感染症、犬パラインフルエンザなどがあります。

犬の飼育環境に合わせて、どのワクチンを接種するか、かかりつけの動物病院に相談しましょう。



・**フィラリア症（犬糸状虫症）**…フィラリアに感染した蚊に刺されることによって、フィラリアの幼虫が犬の体内に侵入します。成長した成虫は肺や心臓の血管に寄生し発症します。最終的には命に関わる恐ろしい病気です。完全室内飼育でも感染のリスクはゼロではありません。
毎年、蚊の活動時期に合わせた予防を徹底しましょう。

・**ノミ、マダニ**…ノミやマダニが寄生することによって、皮膚症状が引き起こされたり、ノミやマダニが媒介する感染症を予防するため、動物病院で処方された予防薬をお勧めします。

・**『おなかの虫』（消化管内寄生虫）**…回虫、鉤虫、条虫など。母犬から感染したり、散歩中に感染することがありますが、感染に気づけなかったり、検便で感染を確認出来ないこともあるので、定期的な駆虫をお勧めします。

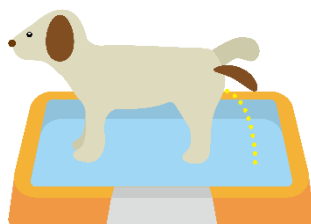


◆しつけ◆

犬が人間社会で暮らしていく上で、人も犬も幸せに暮らすためのコミュニケーションです。子犬の生後3～4ヶ月頃までの期間は、社会にデビューする準備期間として『社会化期』と呼ばれています。この時期の子犬は好奇心が強く、様々なものに対する慣れや知識の吸収が早いので、最低限のしつけはこの時期に行うのが望ましいです。

・トイレの場所を覚えさせる

- ▷犬が落ち着ける場所にトイレを置く。
→トイレはサークルで囲むのがお勧め！
- ▷トイレサインを見逃さずトイレに連れていく。
→床などのおいを嗅ぎそわそわし始めたらトイレへ！
- ▷上手にできたら褒め、サークルから出してあげる。



・人に慣れさせる

- ▷まずは飼い主とのスキンシップを！
→ブラッシングや爪切り、歯磨きなどのケアもコミュニケーションの一つ。
- ▷外に連れ出せるようになったら、色んな人や、他の犬、外の環境に慣れさせる。

・『見て！』『Look!』

- ▷『アイコンタクト』（犬が飼い主を意識的に見て注目している状態）は全てのしつけの基礎。
- ▷犬の名前と同時に『見て！』or『Look!』と声をかけ、目があったらすぐ褒めたりおやつをあげる。繰り返し、数秒見つめ合う、そして徐々に長い時間、目を合わせていられるようにする。

・『おすわり』

- ▷ご褒美のフードを持った手を犬の鼻先から頭にゆっくり上下に動かす。犬がフードを頭で追うと自然にお座りする。この動きができれば動きとともに『おすわり』と声をかけ、ご褒美をあげる



・『ふせ』

- ▷おすわりをさせた状態で、ご褒美のフードを持った手を、『ふせ』と言いながら犬の前足の間に下げ、犬の頭を下に誘導し、前足と後ろ足をたたませる。その状態でご褒美をあげる。

・『待て』

- ▷おすわりやふせの状態ですれども動かずにいたら、ご褒美をあげ、徐々に時間を増やしていく。



★しつけのポイント★

- ・怒鳴ったり叩いたりせず、褒めるようにしましょう。
- ・注意する時は、冷静に、『ダメ』と強めに短く伝えましょう。
- ・一つの動作のかけ声やジェスチャーは、家族間で統一しましょう。
- ・しつけに不安がある場合は、しつけ教室やドッグトレーナーに相談してみるのも一つ。

